

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	次期基本計画策定に向けた取組		
予 算 額	15,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担 当 課	市長公室 政策企画調整担当(222-3035)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 本市では、2011年度から10年間の都市経営の基本となる「はばたけ未来へ！ 京プラン（京都市基本計画）」を、市会の議決を得て、2010年12月に策定した。 現在、後半5年間の実施計画「京プラン実施計画 第2ステージ」（2016-2020）に基づき、京プランの推進を図っているところである。 2019年度は、引き続き京プランの着実な推進を図るとともに、現行の基本計画の計画期間が2020年度までとなっていることから、京都市基本計画審議会（仮称）を設置し、次期基本計画策定に向けた取組を進める。</p> <p>[事業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2019年度の取組内容（予定） <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市基本計画審議会（仮称）の設置、運営など 2 2020年度の取組内容（予定） <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市基本計画審議会（仮称）の運営、パブリック・コメントの実施 ・ 市会への提案・審議、基本計画の策定 など 			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）] 大阪市(※)を除く全ての政令市で基本計画を策定。 (※基本構想の下に分野別計画策定)</p>			

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	御代替わりに係る慶祝事業												
予算額	8,000千円	新規・継続の別	新規										
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠										
担当課	総合政策室 京都創生担当(222-3375)												
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>京都は、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれ、皇室とともに歴史・文化を伝えてきた。今なお東京の皇居以外に唯一現役の御所があり、今秋の御大礼においても、京都御所の高御座が即位の礼に用いられ、また、京都御所において近畿地方の各界代表者を招いた茶会が開催される。皇室の弥栄を願い、双京構想を掲げる皇室ゆかりの地・京都として、平成31年度の天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位（御代替わり）においても、祝意を表する機運を市民ぐるみで高めていく必要がある。</p> <p>(参考) 天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に関する主な儀式等の日程</p> <table border="0"> <tr> <td>4月30日</td> <td>退位礼正殿の儀</td> </tr> <tr> <td>5月1日</td> <td>剣璽等承継の儀、即位後朝見の儀</td> </tr> <tr> <td>10月22日</td> <td>即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀</td> </tr> <tr> <td>11月14・15日</td> <td>大嘗宮の儀</td> </tr> <tr> <td>上記の後、京都に行幸の際</td> <td>茶会（京都御所）</td> </tr> </table> <p>【事業概要】</p> <p>平成31年度の御代替わりに当たり、平成の京都と皇室を振り返るパネル展示や慶祝の掲示による祝賀機運の醸成、民間の慶祝行事の取組の促進・協力など、関係部局及び民間団体等と連携して、皇室ゆかりの地・京都にふさわしい慶祝事業に取り組むことにより、悠久の都として栄えた京都の歴史・伝統への理解を深めるとともに、新たな時代を迎える実感を市民と共有する。</p>				4月30日	退位礼正殿の儀	5月1日	剣璽等承継の儀、即位後朝見の儀	10月22日	即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀	11月14・15日	大嘗宮の儀	上記の後、京都に行幸の際	茶会（京都御所）
4月30日	退位礼正殿の儀												
5月1日	剣璽等承継の儀、即位後朝見の儀												
10月22日	即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀												
11月14・15日	大嘗宮の儀												
上記の後、京都に行幸の際	茶会（京都御所）												
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>													

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	西陣を中心とした地域の活性化		
予 算 額	10,000千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担 当 課	プロジェクト推進室 プロジェクト推進第四担当(222-3992)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 西陣を中心とした地域は、西陣織をはじめとした伝統産業や伝統文化・伝統芸能、寺社、花街の文化、歴史的な町並み、商店街、観光スポットなど、多彩な魅力・資源を有しており、千年以上にわたり、京都の、そして日本の中心として、伝統をベースに時代ごとの新たな知恵、技術を取り入れて、変革を繰り返して発展し続けてきた。 これらの魅力・資源を活かして、文化を基軸に経済や観光とも融合させながら、新たな西陣の未来を拓くまちづくりを推進するため、「西陣を中心とした地域活性化ビジョン～温故創新・西陣～」を平成31年1月に策定した。</p> <p>【事業概要】 平成31年度は、ビジョンに掲げる3つの柱（「歴史・文化を継承する」、「趣のある町並みに住む」、「西陣で働き、賑わいを生む」）を対象に、<u>民間からの提案による活性化プロジェクトを立ち上げ、市民や地域、団体、事業者など、関連する推進主体との協力の下、ビジョンの実現に向けた方策の具体化を図る。</u>（例えば、暮らしの文化を物語とともに次世代へ継承することや、京町家・路地の生活・仕事の場としてのモデル的活用、また、クリエイティブなものづくりの振興などをテーマとしたプロジェクトを複数立ち上げる。） また、<u>分野や地域を超えた連携・融合を進め、つながりによる新たな展開を生み出していくため、多様な推進主体が集い交流する機会を作るなど、様々な主体の協働による、ひとごとではなく「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを推進する。</u></p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	京都駅東部エリアの活性化		
予 算 額	4,500千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担 当 課	プロジェクト推進室 プロジェクト推進第二担当(222-3176)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>京都駅東部エリアは、京都の玄関口・京都駅と東山の文化エリアを結ぶ立地にあるとともに、平成35年度には崇仁地域への京都市立芸術大学等の移転が予定されており、文化芸術を基軸としたまちづくりにより、本エリアだけでなく、本市全体の活性化につながる大きな効果を期待できるエリアである。</p> <p>こうした状況を踏まえ、京都の玄関口にふさわしい個性豊かで魅力的なまちづくりを進める観点のもと、平成30年6月に、地域の方や学識経験者等で構成する「京都駅東部エリア活性化将来構想検討委員会」を設置した。同委員会では、京都駅東部エリアにおいて、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するため、将来像やまちづくりの方向性等を盛り込んだ構想について、審議いただいているところである。</p> <p>【事業概要】</p> <p>本エリアでは、高瀬川など、さまざまな地域資源が存在し、これらを活かしながら、下京渉成小学校区の5学区によるエリアマネジメント組織など、地域の方をはじめ、京都市立芸術大学、京都美術工芸大学、文化芸術関係者等も参加し、さまざまな実施主体により、市民が主役のまちづくりが取り組まれている。</p> <p>多様な主体の連携による「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生に向けたまちづくりを推進するため、平成31年度は、このような文化芸術とまちづくりを融合させた個々の活動について、広報・運営等のサポートや、その担い手の交流促進に取り組む事業者を募集するなど、それらの活動を支援し、活動と活動を丁寧結び付けることで、エリアのネットワーク構築に取り組む。</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(仮称))の開発・活用		
予算額	8,500千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	総合政策室 大学政策担当(222-3103)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕</p> <p>京都市は38の大学・短期大学が集積し、人口の1割に相当する約15万人の学生が学ぶ「大学のまち・学生のまち」である。この都市特性を活かして、日本初の大学間連携組織である(公財)大学コンソーシアム京都と連携し、単位互換制度や京都学生祭典、大学・学生と地域との連携、文化芸術との触れあいなど、大学の枠にとらわれず、学外に出て学び、成長できる、他都市に類を見ない取組を進めているところである。</p> <p>今後、これらの取組をより多くの学生に直接届け、京都でしか味わえない学生生活に引き込むことにより、次の社会を支える担い手を育成することに加え、京都での学びから、京都の魅力をより深く感じてもらうことで、留学生を含む学生の京都への定着を更に促進していく必要がある。</p> <p>〔事業概要〕</p> <p>本市や(公財)大学コンソーシアム京都、地域、企業等の多様な主体による京都でしか味わえない学生生活を実現する様々な取組や学生向けの各種情報を、学生に直接かつ確実に届けるとともに、学生のニーズ・行動特性の収集・活用を通じて、様々な取組の改善や新たな事業の創出につなげるなど、好循環を生み出すための基盤として、学生の意見を取り入れながら、学生向けアプリ「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(仮称)の開発・活用を行う。</p> <p>本事業を通じて、①京都でしか味わえない学生生活の実現、②京都の魅力を感じた学生の就職を含めた地域への定着、③京都での学生生活のブランド化による新たな学生の獲得を目指す。</p> <p><アプリの主な機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都ならではの学びを発信・活用(京都世界遺産PBLを含む単位互換制度や京都学生祭典等) ・学生向けイベントや学割店舗の紹介 ・地域企業の魅力発信や地域活動・ボランティア活動等の実績の記録など 			
〔参 考 (他都市の状況・事業効果など) 〕			

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業		
予 算 額	5,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担 当 課	総合政策室 留学生支援・大学連携推進担当(222-3032)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>京都に留学生が集い、市民との異文化交流が進むことは、大学自体の活性化にとどまることなく、市民の異文化に対する理解やまちの活性化にも大きく寄与する。また、留学生が卒業後も京都で就職・生活していくよう支援していくことにより、定住人口の維持・増加や中小企業の担い手の確保につながるなど、京都経済にとってもプラスになる。また、留学生が将来的に京都ファンになって帰国するという事は、海外における京都の魅力発信にもつながる。</p> <p>こうしたことから、平成27年5月にオール京都体制で設立した「留学生スタディ京都ネットワーク」(以下、「ネットワーク」)を中心に、京都留学の魅力・情報の発信や受入環境整備、就職支援など、総合的な留学生支援を展開しているところであるが、更なる留学生誘致のためには、より戦略的に取組を進めていくことが必要である。</p> <p>平成30年度には、首都圏の日本語学校における現状把握や関係構築を目的に、意見交換や試行的な京都の大学説明会を実施した結果、以下の状況が明らかとなり、本事業については、留学生の戦略的誘致に大きく寄与すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の日本語学校で学ぶ留学生数は急増しており、地方の大学への進学ニーズも高まっているが、京都の生活や大学等に関する情報が入手しにくい。 ・留学生が進学先を決める際、オープンキャンパスや説明会への参加、SNS や口コミ等、実際に接触できる情報が大きく影響する。 ・首都圏の日本語学校で学んでいる留学生の京都への進学が増えると、口コミによる後輩への影響力が期待でき、継続的な効果が見込める。 <p>また、オール京都で誘致活動を実施することにより、これから留学生誘致の強化を目指す大学等についても、参加を促進することができる。</p> <p>【事業概要】</p> <p>関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進するための誘致活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 京都の大学等説明会 京都の大学等とともに、生活や大学等に関する情報について説明会を開催 (2) 留学生対象 京都の学び体験ツアー 体験授業、京都で学ぶ現役留学生との交流、企業見学等のツアーを実施 (3) 日本語学校の教職員向け 京都の学び体験ツアー 学校見学、大学等関係者との交流、生活支援に係る説明会等のツアーを実施 等 			
【参 考 (他都市の状況・事業効果など)】			

平成31年度 京都市予算案 事業概要

総合企画局

事務事業名	京都・ボストン姉妹都市提携60周年記念事業		
予算額	14,915千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠 局配分枠
担当課	国際化推進室（222-3072）		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 京都市とボストン市（アメリカ合衆国）は昭和34年（1959年）に姉妹都市提携を行い、平成31年に提携60周年を迎える。 この節目の年を契機に、姉妹都市間・日米間での「人材交流」を大きなテーマとして掲げ、「文化交流等を通じたグローバル人材の育成」等を柱に、日米両文化を比較するフォーラムや音楽交流イベントなど、両市間の絆を深め市民の国際交流を推進する事業を行う。</p> <p>【事業概要】</p> <p>1 両市の代表団の相互派遣 本市代表団がボストン市長を4月に表敬訪問し友好親善を図るほか、都市の様々な共通課題への取組や協力に向け意見交換を行う。また、ボストン市代表団の訪問を受け入れる。</p> <p>2 市民レベルの交流促進</p> <p>(1) 京都市におけるボストンの文化紹介 京都市内において、ボストンの魅力やアメリカの音楽等を紹介するイベントのほか、日米の国際交流・文化比較を主題としたシンポジウムを開催する。</p> <p>(2) ボストン市における京都の文化紹介、魅力発信等（平成31年4月） 毎年多くの来場者が日本の文化を体験するボストンの一大イベント「ボストン日本祭り」においてコンテンツによる日本文化の紹介や魅力を発信するブースを設置するほか、ボストン子ども博物館と連携し、工芸などの文化を学べるワークショップを実施する。</p>			
【参 考（他都市の状況・事業効果など）】			